

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】 水稻採種ほで検査を実施

令和6年9月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～花芽検鏡を実施～	
2. 新規就農者研修（農業機械コース）を開催	
3. 和歌地方農業士会県外研修	
II 那賀振興局	3
1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～いちご花芽検鏡研修会で検鏡技術を指導～	
III 伊都振興局	4
1. いちご花芽検鏡を実施	
IV 有田振興局	5-6
1. 令和6年度有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会	
2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会が先進地研修会を開催	
3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催	
4. いちごの花芽検鏡を実施	
V 日高振興局	7
1. 日高果樹技術者協議会が総会を開催	
2. いちご苗の花芽検鏡を実施	
VI 西牟婁振興局	8-9
1. 第30回SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催	
2. 農業士会女性部会が先進地研修会を開催	
3. 水稻採種ほで検査を実施	
4. 稲成いちご研究会が栽培ほ場施設の巡回調査及び意見交換会を実施	
VII 東牟婁振興局	10-11
1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～いちごの花芽分化程度を確認～	
2. 宇久井小学校の児童たちがなすの収穫、袋詰めを体験	
3. 農業機械安全研修を開催	

Ⅷ 農林大学校就農支援センター

12

1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会/閉講式
2. 令和6年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第2班)開講

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～花芽検鏡を実施～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。

いちごは花芽分化していない苗を定植すると収穫開始時期が遅くなってしまいうため、定植前に花芽分化しているかを顕微鏡で確認する必要がある。花芽分化には25℃以下の低温が必要であるが、今年は夏の高温が続き、和歌山の観測地点では9月23日にようやく1日の平均気温が25℃になるという状況であった。9月20日に農家12名の39苗を確認したところ、ほとんどの苗が未分化であった。27日に農家6名の17苗を確認したところ、分化指数が未分化の「0」から分化期の「2」以上のものがあるなど、農家や苗によってバラツキがあり、花芽分化が例年よりかなり遅くなっていた。

昨今の気候変動により、いちご栽培においても今までの通説が通用しなくなっている。当課では、農家をサポートし、安定生産できるように栽培の指導を行っていく。



花芽検鏡

2. 新規就農者研修（農業機械コース）を開催

農業水産振興課では、農業技術の向上を図るため、9月5日に農業試験場にて「刈払機」の基礎研修会を開催し、新規就農者ら7名の出席があった。

はじめに、中居普及指導員が刈払機の安全使用や基本構造について講義し、実習では、出席者に普段使用している刈払機を持参してもらい、それをメンテナンスする形で行った。出席者は自身の刈払機に汚れやゆるみがないか等を入念に確認していた。メンテナンス後は一人ずつ草刈りを行い、その使用感を実感するとともに座学で学んだ安全使用ができているか、刈残しはないか等を意見交換した。出席者からは、「今までメンテナンスをしたことがなかったので、知ることができてよかった」「今後は定期的にメンテナンスを行っていききたい」等の感想があった。

農業者同士での交流もあり、横のつながりができる良い機会となった。



刈払機の基礎について講義



メンテナンス実習

3. 和海地方農業士会県外研修

9月25日に和海地方農業士会は、京都府伊根町の酒蔵と亀岡市にある京都最大のファーマーズマーケットで研修を行った。

伊根町の(株)向井酒造では女性杜氏の向井久仁子氏が純米酒を醸造している。施設の見学をしながら、向井氏から酒蔵の歴史や製法などを目指す酒について説明を受けた。その後昼食を共にし、向井氏が杜氏になるまでのあゆみや古代米を使った赤色の酒「伊根満開」誕生の物語、材料調達のための農家との関係づくりや農業体験について語ってもらった。酒造りでは万人が好むものでなく料理に寄り添い引き立てる味を目指している。その取り組みから、「伊根満開」は令和元年の大阪G20サミットの昼食に使用された。

亀岡市のJA京都たわわ朝霧では、井原弘揮店長による店舗概要の説明を聞き、施設を見学した。店舗は平成21年6月にオープンし、観光スポットの保津川下りや嵐山、インターチェンジにも近い立地であり、年間35万人の来場者と約10億円の売り上げを記録している。当日、京都府オリジナル品種の早生黒豆の「紫ずきん」が並び、各自購入していた。

こだわりの品とその背景にある物語から参加者の心が「京都満開」となった1日であった。普段と異なる視点から各自農業を見つめる機会となり、新たな展開になるものと期待される。



麹室での説明



たわわ朝霧店頭「紫ずきん」

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】

～いちご花芽検鏡研修会で検鏡技術を指導～

那賀振興局では、いちご生産に取り組む新規就農者が多く、花芽検鏡の依頼が増加傾向にあることから、生産者自身が検鏡できるよう技術の普及を行っている。

9月10日、那賀地方いちご生産組合連合会（会長：杉本好央氏）の主催により、いちご花芽検鏡研修会を午前午後の二部制で開催され、生産者10名、研修生4名、関係機関6名の出席があった。

研修会では、嶋本副主査が、いちごの花芽分化の生理や近年の花芽分化の状況について説明した後、新たに導入したモニター表示が可能な実体顕微鏡を用いて検鏡の実演を行った。参加者からは、「検鏡の様子をモニターで確認することができ、イメージが持てた」と好評であった。その後、参加者は各々検鏡に挑戦し、最終的に生産者4名が検鏡に成功した。昨年からの研修会に参加している生産者が複数人おり、着実に花芽検鏡技術の習得が進んでいる。参加者から、「もっと検鏡の練習をしたい！」との意見があったことから、検鏡会場に生産者が自由に使える顕微鏡を配置し、技術習得を後押ししていく。



花芽検鏡の実演の様子



花芽検鏡に挑戦する参加者

Ⅲ 伊都振興局

1. いちご花芽検鏡を実施

いちごは、花芽が未分化の状態です定植をした場合、開花が遅れるリスクがある。昨年は8月・9月の気温が平年より高く、例年通り9月下旬に定植した結果、開花が遅れる事例が管内で見られた。

そこで、イチゴ定植適期を見極めるために高野ロイチゴ研究会（会長：木村恵一氏）と協力し、花芽検鏡を実施した。

実施日である20日及び27日に、研究会会員が持ち込んだ苗16株を、農業革新支援専門員（1名）、JA紀北かわかみ営農指導員（1名）と振興局農業水産振興課職員（1～2名）が検鏡を行った。なお、顕微鏡に付属したモニターで花芽分化の状況を確認できるため、経験の浅い職員にとっては検鏡手法を学ぶ良い機会となった。

検鏡の結果、20日と27日両日とも未分化株の割合が多く、例年より遅れている傾向であった。原因として、今年も8月・9月の気温が平年より高かったことが考えられた。

今後も、生産者が安定生産できるように栽培管理を指導していく。



花芽検鏡の様子

IV 有田振興局

1. 令和6年度有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会

9月3日、有田管内の新規就農者（5年以内）と有田農業女子を対象とした有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会が開催され、7名の農業者が出席した。

卓越した栽培技術を持ち、県知事が認定した「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏が講師となり、7月22日に行った粗摘果の実演に続いて、今回は葉果比や樹勢を見ながら摘果量を調整する方法などについて実演していただいた。また佐原氏の指導のもと、実際に参加者が仕上げ摘果を行った。参加者からは「葉果比については、理論上では知っていたが、実際に講師の摘果を見ると自分の感覚よりもっと落とさないといけないとわかり大変勉強になった」等の声が聞かれた。

摘果をテーマにした今年度の研修会は今回で終了であるが、3月頃にせん定技術の研修会を予定しており、佐原氏には引き続き、技術伝承の講師として講義・実演を行っていただく予定である。

当課では継続して新規就農者・女性農業者の技術習得支援を行っていく。



佐原氏による実演



摘果実習を行う参加者

2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会が先進地研修会を開催

9月4日、標記研修会が会員32名参加のもと開催された。企業の商品開発・販売等について学ぶため、橋本市の「豆の蔵元 橋本工場」及び和歌山市の「総本家駿河屋本社工場」の見学を行った。

次に、和歌山県工業技術センターを訪れ、同センターの食品加工の開発支援について、職員から講義を受けたのち、センター内のフードプロセッシングラボを見学した。

参加者からは「自分の所属するグループでもさまざまな果樹のジャムを作っており、果実の皮や味を使った調理方法、色を生かした調理方法等、作り方をもう一度研究したいと思った」、「最新の機械を見せていただき、大変勉強になった。新しい技術で時代に合った商品開発が出来れば良いと思う」等の感想が聞かれた。



「総本家駿河屋本社工場」を見学する会員



フードプロセッシングラボを見学する会員

3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催

糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

9月27日、糸我小学校と田鶴小学校の5年生は、合同で稲刈りを行った。「田んぼの学校」の校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）を始めとする地元農家指導のもと、鎌を使って稲刈りを行い、その後、脱穀作業も体験した。子供たちは慣れない鎌を使っての作業で、苦戦しながらも上手に刈り取ることができた。10月下旬頃には今回収穫した米を一般の方に販売し、自分たちが作った米をPRする授業を行う計画を立てている。

今後も農業水産振興課では地域の農業者とともに食育活動の支援を行っていく。



稲刈りを行う児童ら



コンバインによる脱穀作業を体験する児童ら

4. いちごの花芽検鏡を実施

9月17～30日にかけて、有田振興局において管内のいちご農家から持ち込まれたポット苗の花芽検鏡を実施した。

花芽検鏡は、顕微鏡で花芽分化のステージを確認することにより、生産者に対し定植時期を指導する大切な作業である。

近年は9月の気温が平年に比べ高く、花芽分化が遅れる傾向がある。検鏡を行ったところ、未分化の株が多く、早期の定植が見込めない状況であった。このため、再検鏡を行うなど検鏡期間中に延べ102株を検鏡し、その結果をもとに各生産者に定植時期の目安を伝えた。

また、今年の気温が引き続き高く推移していることから、なるべく定植時期を遅らせること、定植後もハウス内の気温が高くないように開閉を心がけること、窒素成分の施用開始時期を遅らせること等の指導を行った。



花芽検鏡の様子（9月20日）

V 日高振興局

1. 日高果樹技術者協議会が総会を開催

9月27日、JA紀州、JAグループ和歌山農業振興センター、農業共済組合、教育機関、市町村、果樹試験場うめ研究所及び農業水産振興課の技術職員で組織する日高果樹技術者協議会（会長：近田勝紀氏）は、果樹試験場うめ研究所で令和6年度総会を開催し、26名が出席した。

同協議会は、果樹技術者の資質向上と日高地方の果樹農業の発展に寄与することを目的に、講習会や栽培状況調査及び検討会の開催、栽培技術の改善や流通・消費動向に関する調査研究等の活動をしている。

総会では、役員改選の他、令和6年度の活動計画として、最近問題となっているうめのクビアカツヤカミキリやモモヒメヨコバイの被害対策、柑橘の日焼け果・裂果防止対策に取り組んでいくことなどを決定した。

また、研修会ではうめ研究所土田副所長及び綱木研究員から、令和2年産うめ不作を受けて試験した結果や、うめ栽培の重要なポイントなど情報提供があった。



近田会長の挨拶



うめ研究所土田副所長からの情報提供

2. いちご苗の花芽検鏡を実施

管内には、7つのいちご生産組織があり、合わせて39戸（令和5年作）が栽培に取り組んでいる。9月は苗の定植時期であり、安定生産のためには、頂花房の花芽分化が始まっている苗を植えることが重要である。このことから農業水産振興課では、例年農家の要請を受け、定植に先立って苗の茎頂を検鏡して花芽分化の状況を確認し、結果をフィードバックすることで定植時期の判断をサポートしている。今年も夜冷育苗の苗から順次14戸、延べ271株（前年度129株）の検鏡を実施した。

今年度は、検鏡結果を画像データで保存するのに適したタッチパネルモニター付き顕微鏡を新たに導入するとともに、検鏡結果を客観的に判定するため複数人で確認を行う体制を整えた。そのため、普及グループの職員5名が暖地園芸センター等関係機関の協力のもと約1か月かけて検鏡の実習を重ね、技術の向上に努めた。

今年は厳しい残暑の影響で苗の花芽分化が例年より遅く、分化の程度にばらつきがみられたことから、定植を遅らせる農家が多かった。今後は、園地巡回を実施して開花状況を確認する予定である。



課内の実技研修で技術向上



花芽検鏡の様子

VI 西牟婁振興局

1. 第30回 SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いが開催される

標記農業者の集いは、西牟婁地方の農業者が、組織・年齢・生産部門などの枠を越えて、地域農業の発展について考え、取組につなげることを目的として、農業士会・生活研究グループ・4Hクラブで構成する実行委員会（実行委員長：森川敏子氏）が開催している。今年度は、9月6日に「西牟婁地方の宝に新しい息吹をあたえよう」をテーマに、Big・Uで実施し、3団体の会員と関係者併せて約70名が出席した。

株式会社藤桃庵代表取締役の藪本周也氏から「地域農産物を活用した6次産業化の取り組み」と題して、6次産業化を始めた経緯や自分だけでなく地域全体を盛り上げる取組が重要であるとの講演があった。その後、農業水産振興課から、「うめの超省力化枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝導入推進の取組」及び、「クビアカツヤカミキリの対策」について情報提供を行った。

講演終了後には、交流会も実施され、今年度のうめの状況等について、活発な意見交換が行われた。



（株）藤桃庵藪本氏の講演

2. 農業士会女性部会が先進地研修会を開催

9月10日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：武森直子氏）は、株式会社八旗農園（紀の川市）の取組について学ぶため、先進地研修会を開催し、部会員11名が参加した。

午前中は那賀総合庁舎において、八旗農園の高平昌英代表取締役、中浴泉専務取締役、上畑雅敬取締役から八旗農園の取組についての説明を聞いた。ブランド化や輸出、様々な企業との取引などのユニークな事業戦略や、桃を始めとした果樹類の加工品開発についての話には部会員は興味深く聴き入り、質疑応答や意見交換が活発に行われた。

午後は、八旗農園の加工施設を訪問し、加工機器の説明や現在手がけている加工品等の説明を受けた。ここでも質問が相次ぎ、加工のアイデアや可能性についての話題で盛り上がった。続いて直売所に移動し、桃やはっさくのスムージーを堪能するとともに、買い物を楽しんだ。

本研修では、6次産業化の取組内容から、様々なヒントを得ることができ、有意義な研修となった。



意見交換の様子

3. 水稻採種ほで検査を実施

水稻の優良種子の安定的な供給のため、和歌山県農作物種子協会が行う種子生産事業に対し、県では、生産者への巡回指導や採種ほ場の検査等を行っている。

現在、西牟婁地方でのみ水稻種子生産が行われており、田辺市中辺路町3か所と上富田町1か所において「キヌヒカリ」、「きぬむすめ」の採種が行われている。

農業水産振興課の日比技師、和歌山県農業協同組合連合会の担当者、JA紀南営農指導員の3名が5月の田植え期から、出穂期、糊熟期では場検査を実施し、9月10日の収穫前の検査で種子伝染性病害や異品種の混入がないことを確認した。本年はイネカメムシの大発生や8月30日～9月1日に襲来した台風10号の影響が懸念されたが、生育は良好で例年通り収穫された。

今後は収穫後の生産物検査や、農業試験場での発芽率検査が予定されており、当課では、優良種子の生産に向け、生産者への助言や指導を引き続き行う。



収穫前のほ場（中辺路町）

4. 稲成いちご研究会が栽培ほ場施設の巡回調査及び意見交換会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術の高位平準化及び高品質安定生産を図るため、毎年、定植前（9月）と共同出荷前（12月）の2回、栽培ほ場施設の巡回調査及び意見交換会を行っており、9月17日に研究会会員、JA紀南営農指導員、当課普及指導員合わせて11名が参加した。

はじめに、会員の栽培施設を巡回調査し、苗の生育や病虫害の発生状況を確認した。その後、JA紀南の販売担当職員から令和5年度産の販売実績や出荷用段ボールの変更点について説明があり、変更した際の問題点について意見交換を行った。

続いて、農業水産振興課の谷普及指導員から、昨年度実施した炭酸ガス施用効果についての実証試験結果や普及指導計画での取組について説明した。

当課では今後ともJA紀南と連携し、現地検討会や意見交換会を実施し、同研究会の活動を支援していく。



現地検討会の様子

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】～いちごの花芽分化程度を確認～

9月20日と25日にくろしお苺生産販売組合(会長：松出真紀氏)は、JAみくまの営農経済センターにおいて、いちごの花芽分化程度を実体顕微鏡で確認した。

花芽分化程度の確認は、いちご安定生産に影響する定植時期の決定に重要である。

当日は、生産者9名から採取した苗をJAみくまの職員1名、農業水産振興課職員3名が花芽分化の程度を確認した。その結果、今年は昨年と同様に、各苗の花芽分化が平年より4～5日遅れていた。

この結果をもとに生産組合は、各会員にいちごの苗を9月20日から9月29日を目安に定植するよう通知した。



花芽検鏡作業

2. 宇久井小学校の児童たちがなすの収穫、袋詰めを体験

9月6日、那智勝浦町太田において宇久井小学校の児童らがなすの収穫体験をした。

この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会(会長：小田三郎氏)が中心となり、地産地消推進活動の一環として小学生を対象に開催している。

ほ場主の松本安弘氏は児童たちに収穫方法を説明し、児童らは松本氏の指導のもと、それぞれ千両なすを4本ずつ収穫した。その後、収穫したなすのうち3本を袋詰めし、店舗に並ぶまでの流れを学んだ。

その後児童からは、なすの成長や作業の内容に関する質問があり、各質問に対して松本氏は丁寧に回答し、児童たちはメモを取っていた。

今後も食育活動を実施し、児童たちが食への関心を持つ機会となるよう継続して取り組んでいく。



なすの収穫方法を聞く児童

3. 農業機械安全研修を開催

9月17日、農業水産振興課は、那智勝浦町南大居において農作業現場の機械事故防止を目的とした、トラクターの農業機械安全研修を開催した。当日は、新規就農者、JAみくまの農業女子や関係者の計7名が参加した。

地域農業士の松本安弘氏が講師となり、受講者にトラクターの操作、機能、危険箇所や危険事項等の安全使用について説明した。

その後、受講者は松本氏による指導の下、ヘルメット着用の上、トラクターを操作し、秋冬野菜予定地の耕うんを行った。受講者は、不慣れな機械操作に苦戦しながらも、トラクターを操作し、次第に機械操作が上達した。

受講者からは、「緊急時に機械を止める方法や機械のメンテナンスはどうするのか」など多くの質問があった。各質問に対し、松本氏は実例を挙げて解説した。

今後も農作業での事故が起こらないように、啓発に取り組んでいく。



松本氏の説明を受ける受講者



トラクターを操作する受講者

Ⅷ 農林大学校就農支援センター

1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会/閉講式

9月6日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第1班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。受講生は、5月から9月まで5ヶ月間（計25日）、果樹・野菜・花きなどの栽培管理や病害虫の防除、農業資材・機械の安全使用などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけてきた。

営農計画発表会では、それぞれの受講生が思い描く将来の営農目標を発表し、職員や社会人課程受講生と意見交換を行った。

閉講式では、鳥居所長から修了生14名一人一人に修了証書が手渡され、「今後様々な問題が出てくると思うが1人悩まず健康第一で営農計画に沿った農業を実現してほしい」と激励の言葉が送られた。



営農計画発表



修了証書授与

2. 令和6年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第2班)開講

9月21日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶウイークエンド農業塾（第2班）が開講し県内外から18名が参加した。開講式では、谷口次長から「常に問題意識をもって取り組んでください」と挨拶し、その後研修生が自己紹介を行い「美味しい果物や野菜を作りたい」、「農業の基礎を学びたい」など抱負が語られた。

その後、午前中は和歌山県農業の概要、いちじく、ブルーベリーの栽培の講義、午後は農機具の構造とメンテナンスの講義と刈払い機や動力噴霧器等の取り扱い方やメンテナンスの方法を実習した。当初の計画では8月31日からのスタートであったが、台風10号の接近により研修を実施できなかったことから、研修内容を一部集約しながら11月17日まで計8日間の日程で果樹、野菜、花きの栽培方法など基礎知識を学ぶ。



開講式



実習：刈払機のメンテナンス

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489